公民館報
こもろ
9月号
発行／小諸市公民館
編集／館報編集委員会
〒384-0801
長野県小諸市甲1275-2
☎0267-23-8880
No.799

五行歌で四季をうたう

〈五行歌とは〉思ったことをそのままのことばで、五行に表す新しい形式の歌。全音数や季語などの制限はありません。

こもろ五行歌の会

※写真撮影は会員の倉本妙子さん

編集後記

実るほどに
頭を垂れる
稲穂かな

秋風の思いにふけるとき思うこと。黄金に実った穂の上を高く飛ぶ赤とんぼが止まる。そうっと人差し指で、グルグルとトンボの目を回して遊んだこと。

そんな昔、佐久地方ではどこの家でも、春の田植え後に鮒っこを水田に放した。稲穂が実り田の水を引くとき、家族皆で田の中に素足で入り泥水の中鮒を網に追い込み桶の中へ、そして家の池にて泥をはかせる。

それから秋の収穫になる。まず稲刈り。ハゼ掛けしながらイナゴを捕まえて袋に入れて腰に挟む。一石二鳥の仕事。刈取った後は足の窪みでつぶ拾い。ハチの子取り。信州人が越冬する為のタンパク質、カルシウム源となった。自給自足で生き抜いてきた先人の知恵に感謝。

十五夜お月さん。子どもたちはススキを取って、祖母はお団子作り。縁側に台を置き花瓶に菊の花とススキと団子を飾り、皆で月を見て手を合わせ豊作を祝った。

そんな思い出の今を生きているのだなーと、風が通りぬけた9月。

編集委員　倉内　さよ